

みどりさん、みどりさんの親御さん、卒園おめでとうございます。

新型コロナウイルスの影響で、思い出深いはずのみどりさんの3月がこんな形で終わってしまうことになり、何とも切なく割り切れない気持ちになっています。峡南幼稚園で過ごした日々をより一層尊く思う卒園式を迎えることになりそうです。

さて、今回は年度最後の父母の会で峡南幼稚園への思いを語らせてもらう機会をいただいていた。本来なら歌あり笑いありの即興パフォーマンス？(笑)で場をにぎやかすところでしたが、コロナウイルスのための休園措置で父母の会が中止となったため、わざわざ文章にするのも何ではあるのですが、上の娘と合わせてトータル6年、バス通園だったためにほとんど幼稚園に行くこともなく、このままひっそりと幼稚園から離れるというのも名残惜しいので、稚拙ではありますが、このような文章を出させていただくことにしました。

我が家は今年卒園する次女と、5年前の2015年に卒園した長女、二人の娘が峡南幼稚園でお世話になりました。

我が家は幼稚園から20キロほど離れており、園バスの乗り場である「吉べえ」へも10キロほどの距離。「吉べえ」のバス発車時刻に遅れないよう、朝8時出発を死守するのが目下の日課であり、幼稚園に通うというよりはバス乗り場である「吉べえ」に必死で行く、という感覚の方が馴染む生活でした。それなので、園行事などで幼稚園に行くときなどは遠足に行くかのような新鮮な気持ちで、同時になんて遠いところに行っているのか、とわが子たちの忍耐力に感心したものでした。こういう生活がトータル6年。なぜこんなにも遠い幼稚園に通うことになったかと言うと、長女が入園前に出会ったお友達が当初甲斐市の敷島地区に住んでいたのですが、そこからはるばる峡南幼稚園に通っていて、その子のお母さんが本当に幸せそうな顔でよい幼稚園だ、と話すのを聞いたことがきっかけでした。近所にたくさん幼稚園がある中そこに決めたのはなぜなのか、何がそんなに良いのか。県外から越してきて土地勘がなかった私は、よく分からないまま車を運転し、やたらと遠いな、と思いつつも峡南幼稚園の「こぼと学級」に行ってみたのでした。そこでの規制の無さ、とかくプレスクールでありがちな、さあ、これをやりましょう！という皆と一緒にこれをやる、という始まりではなかったのが驚きでした。一人ひとり、興味のあるもの、それもちょうどその年ごろの子どもが一生懸命やりそうなものがほどよく置いてあり、それをひたすらやり続けてもよい、という、それまでプレスクールとして通っていたいくつかの幼稚園が歌やダンスや英語や、次から次へと、さあやりましょう、こうですよ！というものだったので、ついこの間まで道の小石を拾っては排水溝にひたすら落とすとか、公園で見つけたアオキの赤い実をひたすらもぎ取る、ついには全部取り尽くしてしまった！とか、そんな原始的な生活をしてきたのに、皆と合わせて英語だ、ダンスだ、工作とは。しかもいきなり学校のように一斉にみんなで何かをやりましょう、というスタイルについていけるか、そもそもついていけないことが劣等感になってしまわないかという不安がありました。なので、峡南幼稚園の自分

の興味を持ったものをやっていい、というそのスタイルは目からうろこが落ちるものでした。峡南幼稚園ならば劣等感を感じずに済む、というどちらかというとながティブな考えが優先ではありましたが、それが入園を決めた大きな理由となりました。

結果、元々ひとつの事を熱心にこつこつやり遂げるのが性に合っていた長女にとって、峡南幼稚園で自分の納得するまでおしごとをやらせてもらえ、また、それを認めてもらえる環境にいられたのはとても幸せなことだったと今でも思います。そして、当初はコツコツおしごとをがんばっているのだとばかり思っていたのですが、おしごとを通して自信をつけ、認められることで心が満たされ、他のお友達や小さい子に優しくできたり、どんな子とも仲良くできたりする力が備わっていたことも後々思い知らされました。実は、次女は長女と5歳違いの為卒園から2年間のブランクがあり、またその頃になると私自身すっかり地元化していたこともあって、峡南幼稚園は遠すぎてとても通う気にはなれずにいました。ちょうどその頃、小2になった長女が学童保育で友達と一緒に遊びたいと言い出したのを機会に長女を学童に入れる目的で次女を近所のこども園に入れました。しかし、当時はこども園という体制ができたばかりでややこしい縛りが多く、未満児保育ということもあって、園の中でも子どもによって規則が変わってくるということや、単に私が慣れていなかったということもあって、ずっと心の中に何とも言えないモヤモヤがありました。そんな中、長女の小学校で個人懇談があり、担任の先生から思いがけず、「心遣いが素晴らしい。人に対して嫌味なく、絶妙な接し方で優しくできるのがすごい」という旨の好評価をいただき、その時、これはやはり峡南幼稚園で磨かれた心の使い方が生かされていると思い至り、こども園を転園し、次女も峡南幼稚園でお世話になることにしたのでした。

これまで私の中での峡南効果(=峡南幼稚園によって導き出される効果のこと。勝手に命名。)は、椅子を静かに運ぶとか、後片付けをきちんとする、とか、洋服をハンガーにかけるとか、そういう目に見えるものでした。小学生になった長女はそうした峡南効果がどんどん薄れて、どこまでだらしなくできるのだ、というくらい物は放りっぱなしの散らかしっぱなし。今現在で言うと、長女が散らかしたものを次女が峡南効果をバリバリ発揮して片付ける、というありがたい構図になっていますが、目には見えない、心を使うという峡南効果がきちんと育っていたことはありがたいことです。実際、現在5年生の長女は学校で何か役員をやるとか大役をこなしているわけではありませんが、お友達の仲を取り持ち、皆で仲良く過ごすことができている、毎年仲良しグループで庭にテントを張って泊まるお泊り会を主催したり、近所の2歳児から小学校高学年まで、皆を引き連れ、仲良く遊んでいたりする姿には感心するものがあります。

次女の在園時には、そうした長女の経緯を踏まえ、大きな安心感の元、過ごすことができました。また、昨年からはまったトーンチャイムクラブにも参加させていただき、園行事で演奏を披露するなど、私自身も幼稚園生活を楽しく過ごすことができました。今の世の中、お年寄りもそうですが、子育て世代も孤独になりがちだと思います。少し周りの人と話すだけで気が晴れ、子育てのちょっとした悩みも解決する、なんてこともあります。ちなみに私

は最近飼い始めた子犬の飼い方を皆から教わり、ずいぶん勉強になりました。トーンチャイムクラブはそうしたストレス解消、悩み解決の良い場所であり、もちろん皆で演奏する楽しさも半端ないです。一人一人担当する音が決まっているので一人でも欠けると音楽の魅力が半減するし、いかに一人一人が大切であるかということを感じさせてくれる楽器であり、場でありました。そうした場を設けていただいた幼稚園、演奏を指導していただいた保護者のNさんには特に感謝の念に堪えません。

また、私も幼稚園のおしごとに触発されて不慣れな裁縫や刺しゅうなどに挑戦してみたのは良い経験になりました。縫い取りなど、糸で紙を縫うという発想が個人的には面白く、作品集作りでは作品を収納するのに多用してみましたが、とても役立つのが新しい発見でした。他にも紙でカバンを作るとか、織機でポシェットを作るとか、生活に役立つものが多いのは母的にはありがたかったし、納得できるまで時間をかけて仕上げたのだというのがよく分かるものが多かったのも感慨深いものがありました。持ち帰ってくる切り紙の形を開くのもとても楽しみでした。

今、コロナウイルスの感染拡大抑制の為の学校の休校措置で家に子供がいられたら困る、子供が家にいられたら邪魔とかそんな世間の声を聞きます。これについて、共働きというモデルケースを当たり前のように推奨してきて男女ともに働きやすい社会を、というベースがあり、親はいつしか子供を預けることばかり考えるようになった、いざとなれば教育力も発揮できない親になってしまった、という意見を聞きました。確かに、働く親にとって学校がないのは困るし、給食もないのは困ります。私も、休校、休園で困ることは確かにあります。ただ、給食は今まで峡南幼稚園でお弁当作りの苦行（笑）に耐えてきたからか、今となってはそれほど苦には感じないし、何も指示されないところから自分のやりたいことを見つけてやり遂げる、という峡南幼稚園での環境に身を置いてきた子どもたちは意外とすんなりやるべきことを見つけていて、時をうまく過ごしているので、それほど困ることがありません。今まさに、峡南効果が発揮されているのではないかと思います。思うに、峡南効果は生きる力である、とここにきて分かりました。今後の人生も峡南幼稚園で培った力を糧に親子ともに成長していけたら、と思います。

先生方、幼稚園の皆さま、共に過ごしたあたたかな日々は忘れません。本当にありがとうございました。



←姉妹で作った切り紙の花束（3/12）を添えて。

2020年3月17日